

平成31年 新年のご挨拶



毛呂山町長 井上 健次



平成31年、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様におかれましては、ご家族おそろいで新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

2018年の世相を表す漢字は「災」と、昨年12月12日に日本漢字能力検定協会が全国から募集した「2018年今年の漢字」の中から発表されました。

東日本大震災から8年目を迎える今年、東北3県の被災地では復興も道半ばの現状ですが、昨年は日本という国が「災害列島」と呼ばれるほど、全国各地で災害が発生してしまいました。

6月の大阪北部地震では、小学校のブロック塀が倒壊して9歳の女児を含む4人も命が犠牲となり、全国自治体においてブロック塀の安全面での検証が文部科学省から発令されました。

7月の西日本豪雨では、河川の氾濫や土石流によって岡山、広島、愛媛の3県を中心に200人以上が亡くなり、夜間で逃げ遅れた人も多く、早めの避難や備えの重要性が指摘されました。

9月には、最大震度7という北海道胆振東部地震が発生し、広い範囲で土砂崩れが発生し、家屋の下敷きになるなど、多くの犠牲者を出し、震源地に近い火力発電所の停止によって電力の需給バランスが崩れて北海道内全域の停電が長期間にわたり発生しました。

また、9月30日に関西方面から上陸した台風24号は、大阪関西空港が長期間使用不能となり、関東方面においても強い風によって大きな傷跡を残しました。

この台風24号の接近に対して、毛呂山町では9月28日に関係5課で打ち合わせを実施し、30日18時に高齢者等避難開始情報を発令、夜間から10月1日の未明まで役場庁舎内に待機体制を整えて、職員、消防署員、消防団員と待機して災害に備えることとなりました。

町内各地では倒木や物置が飛ぶなどの被害が発生しましたが、幸いにも人命に及ぶ災害にはならなかったことに安堵したところです。

このように多くの災害に見舞われた昨年ですが、被災地において尊い命を落とされた方々に衷心よりご冥福をお祈りし、被害に遭われた多くの皆様にご心からお見舞いを申し上げます。

毛呂山町では、平成28年12月22日に発生した「新潟県糸魚川市の大火」を教訓に、平成29年度より「木造建物密集地域防火・防災対策推進指定地区」として、前久保南（第一団地）地区を指定し、消防署、消防団、地区防災組織、役場職員の相互が連携して防火・防災への取り組みを強化することができました。

平成30年度におきましては、若山地区（第二団地）を指定することができ、今

平成30年 主な出来事



1月 官学連携による空き家対策

「東洋大学建築学科・毛呂山プロジエクト研究成果報告会」を開催
町と宅地建物取引業者2団体が「毛呂山町における空き家の利活用の促進に関する協定」を締結

2月 「川角中学校武道場吊り天井落下防止対策工事」が完成

3月 毛呂山町移住・定住総合ポータルサイト「ちよんごい毛呂山」を開設

「第7期毛呂山町高齢者総合計画」を策定

4月 加藤勉副町長が就任

5月 上田埼玉県知事が「知事のことごとく訪問」で「くらしونس トップMORO HAPPINESS館」を訪問

6月 「第19回消防ポンプ操法大会」開催。ポンプ車で毛呂山消防団第1分団・小型ポンプで毛呂山消防団第3分団が優勝



後段階的に町内の木造建物密集地域を指定していきながら、「自助、共助、公助」を基本に、毛呂山町全域の強化を図り「安全・安心なまちづくり」の実現に向けて尽力して参りますので、皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

さて、平成30年を振り返りますと、年末に嬉しいニュースが飛び込んできました。中国杭州で開催した「世界短水路選手権大会」において、毛呂山町出身の瀬戸大也選手が男子200メートルバタフライで短水路世界新記録を樹立して優勝しました。

また、その4日後には400メートル個人メドレーでも優勝し、この種目の4連覇という偉業を達成することとなりました。

2020年東京オリンピックを目指す瀬戸選手にとって、大きな弾みとなった世界新記録および4連覇ですが、毛呂山町としても瀬戸大也選手の偉業を称え、更に2020東京オリンピックに向けて応援体制を整えて参る所存です。

昨年も子ども達の活躍が光る

毛呂山中学校

卓球部：学校総合体育大会埼玉県大会団体準優勝、関東大会に出場および全国大会に出場。

水泳：学校総合体育大会埼玉県大会で入賞し関東大会に出場。

川角中学校

陸上部：全日本中学校通信陸上競技大会女子150メートル全国大会出場。埼玉県駅伝競走大会中学生女子の部第4位、関東大会に出場。

水泳：関東中学校水泳競技大会出場

「ちやうど毛呂山」

人口減少時代において、少しでも減少幅を小さくするべく、毛呂山町の基本情報や子育て施策、空き家情報や移住・定住施策をインターネットで紹介するポータルサイト「ちやうどいい毛呂山」を開設することができました。

未来を拓く人づくりプロジェクト

少子化が進み、小・中学校の児童・生徒数は年々減少しており、最も生徒数がピークとなった昭和60年度と比べ、現在はその当時の約4割に減少しております。

さらに、今後の児童・生徒数の推移は減少していくものであり、学校などの余裕教室の増加と併せて、教育施設の老朽化は深刻な時代を迎えることとなります。

毛呂山町ではそのような将来を見据えて「未来を拓く人づくり（小中一貫教育）プロジェクト」を策定し、その基本



方針を発表することができました。

新しき村100周年

白樺派の文豪、武者小路実篤氏が宮崎県木城町に築いた「新しき村」は大正7年の事でした。その後ダム建設によって村の田畑が水没してしまつことから第一の「新しき村」が毛呂山町に移設されたのが昭和13年の事です。



9月16日に開催された「新しき村 創立100周年記念祭」(毛呂山町)

武者小路実篤氏が提唱した理想郷の精神を継承し、村では「自他共生」が今も受け継がれており、昨年11月10日、「新しき村100周年の記念式典」が宮崎県木城町で挙行されました。

ゆず採り隊に150人が参加

ゆず農家の高齢化から収穫できない「桂木ゆず」に対して、平成29年度に試験的に行った「ゆず採り隊」を、平成30年度は広く一般から募集をすることとなりました。

NHKや大手新聞社のマスコミの協力により、180人に及ぶ町内外の方々から申し込みがあり、担当課で調整をさせていただいて、昨年12月1日から19日までの期間で150人以上の皆様は毛呂山町の「桂木ゆず」の収穫作業を担っていただきました。

7月 東洋大学による空き家の利活用「タウンミーティング」を開催

8月 「パンパシフィック水泳選手権大会」と「アジア競技大会」に瀬戸大也選手が出場。男子200メートルバタフライと400メートル個人メドレーで合計3つの金メダルを獲得

「未来を拓く人づくり（小中一貫教育）プロジェクト」基本方針を策定

町が埼玉西武ライオンズと「連携協力に関する基本協定」を締結

9月 武者小路実篤氏が築いた「新しき村」が生誕100周年を迎え「新しき村創立100周年記念祭」を開催

11月 町と葬祭業協同組合2団体が「災害に強いまちづくり協定」を締結

12月 「世界短水路選手権」に瀬戸大也選手が出場。男子200メートルバタフライ世界新記録で優勝。400メートルメドレーで優勝。

「ゆず採り隊」を募集して150人以上のボランティアによる「桂木ゆず」の収穫作業。

